

ステークホルダーからのご意見

環境報告書の内容および東京エレクトロングループの事業活動について外部の方々よりご意見をいただきました。報告書に関していただいたご意見は、今回の内容にできるだけ反映しています。また、事業活動に関するご意見は、今後の活動に生かしていきたいと考えています。

ソニー株式会社

(1) 東京エレクトロン環境報告書の感想

環境省のガイドラインに沿って、基本方針、製品と生産の両面からの環境負荷低減に取り組み、ならびに環境マネジメントと重要な情報が適切に開示されており、充実した報告書だと思います。しかしながら、次の点を明らかにしていただければと感じました。

- ①東京エレクトロンと社会で、生産におけるエネルギー、物質フローを示しているが、社会に出た製品の使用に伴う環境負荷(使用エネルギー、物流、包装、廃棄)を加えて、全体の負荷量や製品と生産の占める割合を記述して欲しい。
- ②エコファクトリーで、環境負荷低減への取り組みを評価しているが、「〇〇に取り組んだ」との記述に終わっているので、数値目標に対する具体的な実績を記述して欲しい。
- ③廃棄物削減で、最も多い穂坂事業所の「何故、多いのか、どんな削減努力をしているのか」などの活動の詳細を記述して欲しい。
- ④エネルギー使用量が売上高原単位で97年の2倍になっているが、目標はどこにおかれているのかを記述して欲しい。

(2) 東京エレクトロンのEHS活動に関する感想

SEMI井上皓EHS賞が設けられ、その表彰を通じて、半導体業界のEHS発展を支援されている姿勢に敬服しました。

SEMATECH装置環境対策セミナー等も積極的に実施されるなど、業界でのリーダーシップも心強く感じました。

(3) ソニーから見た東京エレクトロンの印象

マイクロ波プラズマの研究に見るように、半導体生産装置の先端技術開発に率先して取り組み、その成果を装置として製品化してくれる頼りがいのある存在です。

(4) 東京エレクトロンへの要望、期待

新規製品の半導体生産装置に関して、使用時の環境負荷低減目標のロードマップを掲げ推進されていますが、既存装置に関する環境負荷低減改造にも注力を期待しています。

ソニー株式会社
マイクロシステムズ ネットワークカンパニー 社会環境室

青山 純一 氏
藤井 良昭 氏

SEMI*¹

(Semiconductor Equipment and Materials International)

東京エレクトロン環境報告書2003への意見

企業経営にかかわる利益およびコストのすべてが、従来の財務諸表で表されるわけではありません。なかでも企業の運営および企業が行うサービスやその製品の使用によって、環境や健康、安全にどのような影響が起きるかは表されにくいものです。信頼される企業は、公共、従業員、顧客、投資家など広くステークホルダーへの情報発信を積極的に進めています。

東京エレクトロンは、半導体産業において先進的な存在であり、環境報告書の作成にも積極的に取り組んでいます。また、世界にその活動を広報するために、日本語だけではなく英語でも報告書を作成しています。この報告書は、日本におけるウォール・ストリート・ジャーナルともいえる日本経済新聞が実施する「企業の環境経営度調査」で2002年には上位3%にランクされたことわかるように、東京エレクトロンが日々行っている、その優れた活動を反映しています。

この報告書の作成によって、東京エレクトロンは、グローバルケア・イニシアティブ*²の創設メンバーとしてグローバルケアの原則に基づいての行動と、環境と健康、安全対策の実施において最善を尽くすことを表明しています。

私は、グローバルケア・イニシアティブのコーディネーターとして、東京エレクトロンの本環境報告書作成に注がれた努力を思い、これを高く評価したいと思います。

*¹ SEMI：世界の主要な半導体・FPD(平面ディスプレイ)製造装置・材料メーカーが所属する非営利の工業会組織

*² グローバルケア・イニシアティブ：業界全体のイニシアティブとして、SEMIの様々な会員企業が、マネージメント、リーダーシップ、革新に対する公約を作り上げ強化する枠組みを提供するために考案された5つの基本原則。

SEMI
EHS Division
Senior EHS Engineer

Mr. Rick Row